Fons Sapientiae

仙台白百合女子大学図書館報 フォンス サピィエンティエ

Information
de la Bibliothéque
de l'Université SENDAI SHIRAYURI

No.11
2011.11.1

東日本大震災を乗り越える智恵の源

総合福祉学科学科長　大坂　純

3月11日の東日本大震災で被害に遭われたすべての皆様にお見舞い申し上げます。

東日本大震災から半年以上経過しました。メディアでは、あたかも復興に向け力強く歩み始めたような報道がなされることがあります。しかしながら、今だ避難生活を送る被災者は7万人を超えています。家や家族を奪ったのが自然災害だったため、誰を恨むこともできず、しかし目の前の出来事を受け止めきれず、途方に暮れている人も少なくありません。

仙台白百合女子大学のキャンパスも大きな被害を受け、教職員や学生も辛く悲しい経験をしました。しかしそんな中にあっても、本学の教職員や学生のなかには、より被害の大きかった被災者に対して支援の手を差し伸べた人達がいます。避難所での炊き出しや子どもの遊び相手、がれきの撤去、ヘドロのかき出し、支援物資の配布等、様々なボランティア活動を行いました。被災者の悲しみや不安、怒り等を癒すことを願ってのことだと思います。

東日本大震災を経験し，私達は多くのことを学びました。人と人との支えあいが人々を元気づけ、力を与えること、そして何より、東北の文化や伝統、被災者の持つ力と知恵で苦境を乗り越えていけるのだと知りました。

他県からの支援にきた人々が口を揃えていうのは、買い物に6時間、ガソリンに丸1日、給水に4時間も並ぶような生活を送っても、暴動が起きないのは、東北人だからこそだと言います。東北人だからこそ困難な状況を耐え忍ぶことができるのだと。

東北人はどんな困難な状況においても他者を思いやり、自分を律し、地域の調和を大切にするという文化の中で生きてきました。厳しい自然と共存し、神を敬い、地域人々との繋がりによって困難を乗り越えてきた歴史があります。私達の中にある東北人の魂は、東日本大震災のような危機的状況に遭っても、決して揺らぐことはありませんでした。耐える力、困難を乗り切る智恵、地域がともに支えあう関係を築く力等、被災者の持つ力が復興の鍵になります。

東北の復興は気の遠くなるような時間がかかるかもしれません。しかしこれからも、決して諦めることなくみんなで智恵と力を出し合い、乗り越えていかなければなりません。特に本学の学生をはじめとする若い世代が東北の復興に大きな役割を果たしていきます。そして、学生の皆さんを支える智恵の源は、図書館にあります。

これまで図書館とは縁遠かった人達も、ぜひ図書館を利用してみてください。図書館にはこれから私達がどのように生きていくべきか、人間としてどうあるべきか等、様々な智恵が詰まっています。本学で学ぶ学生の皆さんが社会に貢献できる人材に育むのが本学の使命です。

1日も早く美しい郷土を取り戻すため、教職員、学生が一丸となって東北の復興に努力していきましょう。

Contents

1　東日本大震災を乗り越える智恵の源
2　推薦図書
3　利用者の声
4　図書館からの情報
6　新着図書の紹介
7　図書館雑感⑩
8　図書館会議・研修会等の情報
8　図書館利用状況
8　編集後記

S ERENDIPITY ～こんな本に出会いました

推薦図書

＊セレンディピティ：思わぬ掘り出し物を見つける才能。偶然貴重な発見をすること。

暗号解読 ―ロゼッタストーンから量子暗号まで―／著者：サイモン・シン、青木　薫　訳　新潮社

国際教養学科
熊谷 健二

暗号とは、メッセージの外見を変えることで正当な受信者にしか読めないようにし、メッセージの内容を保護する方法のことです。暗号は何千年もの昔から様々な場面で使われ、時には歴史の流れを大きく変えることもありました。

本書の前半では、暗号作成者と暗号解読者との間で何世紀にもわたって繰り広げられてきた知的な競争の様子が、歴史的エピソードを交えながら生き生きと描かれています。密書が解読されイングランド女王暗殺計画への関与が判明し処刑されたスコットランド女王メアリーの物語や、宝の場所を記した暗号の解読に人生と財産のすべてを費やした人々の話などは、暗号の仕組みについて知ることができるだけでなく読み物としても面白いものになっています。

近年は情報通信社会の進展に伴い昔以上に暗号技術の重要性が高まっています。電子メールや携帯電話などで日々やり取りされているメッセージの多くが暗号によって守られているからです。一方で、犯罪者やテロリストらの使用により、暗号は治安や国家安全保障を脅かす危険性も持っています。本書の後半では、暗号の使用を制限したいアメリカ政府組織に対して、自由とプライバシー保護を主張する市民活動家が激しく抵抗する様子が描かれています。そして彼らが守った大衆の暗号が実際に政府にとって脅威となった例が、昨今中東で広がっている市民による民主化革命でしょう。そこでは、デモ呼びかけの手段として暗号機能を備えたソーシャルメディアが使用され、革命の原動力になっていたと言われています。

この本は謎解きやパズル好きの方にぜひお薦めしたい一冊です。また本の最後には読者に向けた暗号問題（英文）が掲載されていますので、ぜひ挑戦してみてください。

ローマ人の物語Ⅴ／ユリウス・カエサル（ルビコン以後）　塩野七生

事務局次長
佐々木 健

秋の夜長、スカッとする一冊ならこの本をお勧めしたい。ハリウッドの冒険映画も、ヤマトの出てくる宇宙戦争の映画も面白いが、この本の爽快さは格別だ。何がそれほど爽快か、それはカエサルと云う英雄が地中海狭しと暴れまわる、波乱万丈の生涯も壮大だが、この英雄のキャラクターが一風変わっていて、波乱万丈に独特の風味を与え爽快感を醸している。カエサルと云う人は、変わった人であった。

ひとつには、反乱寸前の軍団にひとりで出かけて、一声叱責して古参兵を震え上がらせたカリスマ性がある。また、美男ではないのに不思議と女性に人気があって、こちらでも常勝した逸話がある（親しくなった婦人には、エジプト女王クレオパトラ、敵将ポンペイウスの奥方から、最後にこの人を暗殺するブルータスの母親まで仲間入り）。けれどもこの程度なら、まだ珍しい部類の程度だろうか。真のカエサルらしさとは、敵が旗揚げすると知ると、即断即決で飛び出して、半分の兵力で敵を薙ぎ倒す、神業の統帥力にある。このあたりからカエサルは人間離れする。そして最もカエサルらしいところは、降伏した敵を常に許す寛容さにある。敵将の中にはローマの図書館長になった者も、元老院議員になった者もある。中には敵の根拠地に舞い戻った者もあった。そんなことは気にもしないこの神経の図太さ、不遜なほどの自信は初めはじれったいが、繰り出して常勝する姿を眺めていると、「敵を許す」がひとつの快いリズムになるから不思議である。

其のカエサルは、昔許した敵将、ブルータス以下の元老院議員14名に暗殺され、せっかちなカエサルらしく唐突に世を去った。しかし暗殺の動機となると、今ひとつピンと来ない。おそらくカエサルを庇護した天が、使命を終えた彼を膝元に呼び戻すため、元老院のごろつきを狂わせたのだろう。誰も老耄して癇癪もちになった彼を見たいと思う者はない、だからカエサルは暗殺されて、押しも押されぬ英雄になった、そんな気がする。今、テレビでは総理がコロコロ変わる日本の政治を嘆く、そういう特別番組を放送している。原発被害と震災で鬱々とする日本で、２千年以上前に颯爽と登場し、颯爽と退場した男の生涯に触れるのも、面白いことと思います。スカッとする一冊としてお勧めしたい。

美丘 ／石田衣良　角川文庫

健康栄養学科１年
武部 夏実

大学での初めての夏休みに私は小説が読みたくて大学の図書館に行きました。小説の棚にあった本を何冊か借りた中で、この本が１番おもしろかったので紹介します。あらすじは、こうです。

平凡な大学生活を送る太一の前に突然現れる女性「美丘」。当時、大学の準ミス麻理と付き合っていた太一は、決して美しいとはいえないが、強烈な個性と奔放な行動力を持つ美丘に急速に魅かれていく。障害を乗り越え結ばれたとき、太一は衝撃の事実を告げられる。美丘は治療法も特効薬もないクロイツフェルト＝ヤコブ病という病に冒されていたのだ。美丘の最期、その時太一は……。

私は久しぶりに小説を読んだこともあってこの作品はとても衝撃的でした。強い個性をもつ美丘と、恐ろしい病はもちろん驚愕でしたが、なによりも太一の心の変化にとても感動しました。平凡な大学生太一が美丘と出会うことで、彼は心から思うこと、今一番しなければならないことをし始めます。そんな中、美丘は太一にある約束をさせ、最期に太一は美丘との約束を果たします。平凡な大学生ならしないことだと思いますが、太一はやってのけたのです。人を本気で愛することにより変わっていく人をとても美しいと感じる作品になっています。

この作品を読むと、恋人や友人や日常生活への価値観が少し変わるのではないかと思います。興味のある方は、ぜひ読んでみてください。

本のにおいの中で過ごす私だけの時間

利用者の声・こえ・コエ……

図書館という空間

総合福祉学科　家子 敦子

私の場合、ここ最近、図書館や本屋さんに行こうと思うときには多少の「覚悟」と「自制心」を要するようです。ほしい本や知りたいことを調べるという目的を持って行くはずなのですが、いつもそれでは終わらず、知らない間に本が何冊も積まれていて、あっという間に時間がたってしまうからです。おかげで、その後がいつも大変です……。

しかし、多分、図書館という空間は、それでいいのだろうと思います。時間を気にせず、好きなだけ自分の興味や関心に没頭し、価値観を共有できる著者との出会いを楽しみ、自分の世界観に浸れる、それが図書館の醍醐味なのだろうと。ふと、いつからそう思うようになったのかと考えました。よく通った学生の頃は、どうかというと、課題に追われ必死になっている自分と一緒に戦ってくれる同志といったところだったでしょうか。なんだか、年代によっても図書館の楽しみ方は変わるようですが、いずれにしても、自分の味方になってくれそうなそんな空間になっていることは間違いなさそうです。

私と学生時代の図書館と

庶務課　兵藤 恵久

一応、卒業生の私。今の女子大学ができる前「仙台白百合短期大学」しかなかった頃の話ですが、英語科研究室の隣の“第２図書室”には英語の本がたくさんありました。部屋自体はあまり大きくなかったけれど、課題をするにはちょうど良い空間でした。

その頃、“教室”で、“廊下”で、“メディテーションルーム”で、“学生食堂”だった建物は、すっかりお色直しをして別人（？）になっています……それが今の図書館棟。でも、まだちょっとだけ昔の名残りのある場所へ行くと、なんとなくあの頃へ戻ったような気分に。難しい本を読むのは得手ではないけれど、図書館にいる時間は好きです。

図書館の利用法は本を読むだけではなく、それぞれ違っていいと思います。わからないことがあったら図書館のスタッフに聞けば、やさしく教えてくれることでしょう。

前ほど利用は多くなくなってしまったのですが、これからは、もっと時間を作って通いたいと思います。

私の勉強法

人間発達学科3年　髙橋 一子

私は人間発達の3年です。図書館では主にレポートで必要な事を調べたり、館内でパソコンのインターネットを利用したりしています。パソコンは5号館のパソコン室を使用してもいいのですが、図書館だと静かなのでより集中してレポートのための資料を集めることができます。レポートはよく教科書を読み返せば完成させることができますが、図書館にある他の専門書を読んでみるとたまに教科書よりもわかりやすい内容を見つけることができます。それを見つけた時、私は少し得した気持ちにもなりもっと他にさがしてみようと思います。

図書館では勉強しなくてはいけないという気持ちを最初は持っていましたが、利用し続けるうちにいつの間にかマンガコーナーをよく使用しています。初めに思っていたことはもうなくなり、今では図書館は私にとって授業が無い時の憩いの場となっています。

オンラインツール、こんな使い方あります

図書館からの情報

図書館オンラインツールを使いこなそう！

いよいよ、「読書の秋」の到来です。後期の授業が始まり、少しはみなさんも落ち着いてきたころでしょうか。

今回は図書館を120パーセント利用していただくために、みなさんがあまり気づいていない便利ツールで“こんな使い方ができますよ”という方法をお伝えいたします。

実は図書館ホームページには様々なオンラインツールが用意されております。図書館で契約しているツールですが、学内であればどこからでもアクセスできるというスグレモノ。もちろん図書館に直接来て1ページ1ページ辞書を引いたり、本を探していただいたりするのもよいものですが、時間のないとき、ちょっとした言葉が気になったとき、オススメなのです。授業で、部活で、趣味で、就職活動で、どんどん使いこなして周りにも広めてください。読書も大切ですが、本を借りるだけでは図書館のもちぐされ、今から紹介するオンラインツールを大いにご活用ください！

自分の生まれた日の新聞が見たい

→KD／聞蔵Ⅱビジュアル／日経テレコン21

図書館では3種類の新聞データベースがあります。自分の生まれた日の新聞記事を授業で探してくるように課題が出されたことがあり、初めはみなさん気のすすまない様子で探しはじめるのですが、探し出してみると楽しそうに記事を読んでいるようです。その変わっていく様子は、案内してよかったと思える瞬間です。

①KD（河北新報データベース）：1991年8月からの河北新報記事データベース

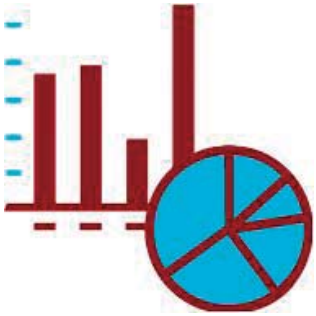
②聞蔵Ⅱビジュアル（朝日新聞データベース）：1985年以降の朝日新聞・AERA・週刊朝日記事データベース、1945-1984の朝日新聞縮刷版

③日経テレコン21（日経新聞データベース）：日経4紙（日本経済新聞、日経産業新聞、日経流通新聞（日経MJ）、日経ヴェリタス）、日経会社プロフィル、日経WHO'S WHO等

日付からはもちろん、事件・出来事・人物などのキーワードから検索することもできます。出来事であれば、起こったきっかけやその後の動向など、流れを追って理解するのに最適です。更に、朝日新聞データベースには1945-1984年の縮刷版が収録されており、戦後を補完しています。この時代の新聞を見て面白いと思ったのは当時の広告です。時代を反映していてとても興味をひきます。違った視点から研究材料が見つかるかもしれませんし、ぜひみなさんにも感じていただきたい面白さです。学生のみなさんのお父さん、お母さんの生まれた日の新聞記事も見ることができますよ。

面接に向けて企業研究したい

→日経テレコン21



キャリア支援課のパソコンからも図書館のホームページを通してアクセスできるので、是非とも試していただきたいツールです。前述の新聞検索としても利用できます。

データ・統計情報でGDPや為替相場、国際収支などを表やグラフで閲覧できます。また、客観的な企業情報も探すことができます。公開されている企業データで面白いものとしては、社長の生年月日、役員の年収などもあります。みなさんが必要とする情報が必ず見つかることでしょう。統計情報で面白いものとしては、全国スーパーマーケット店頭で販売されている加工食品・家庭用品のPOSデータに基づく売れ筋商品ランキングです。いま何がいちばん売れているかというデータは、自分で買い物をするときに参考になるかもしれません。

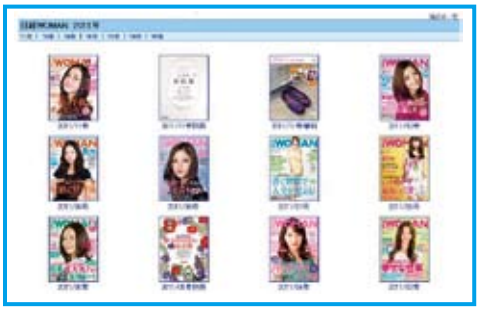
さて、ここで「POS」って何？ と思った方、いらっしゃいますか？ 「ぽす」と読むらしいのですが……

そこで、番外編としてジャパンナレッジのオススメです。一度この図書館報のバックナンバーでとりあげたこともありますので、詳細はそちらを見ていただきたいのですが、ツールを使っていてわからない言葉に出会ったときのために、辞書ツールも用意されているというわけです。

ここでみなさんに耳打ち情報。ジャパンナレッジで「POS」について調べてみてください！　さらに日経テレコン21で自分の気になる商品の週間1位を教えてください。カウンターへこっそり回答にいらっしゃった方には何かよいことがあるかもしれませんよ！ 回答していただいた方のお楽しみ！

日経WOMAN最新号を借りたい

→日経BP社記事検索サービス



日経BP社発行の雑誌を検索・閲覧できるツールです。実は学内でも人気の「日経WOMAN」などは、最新号までもがネット上で読むことができてしまうのです。雑誌は一夜貸出となるので、金曜日に借りる方が多いのですが、希望する号が重なることもあります。このツールですと、いつでも好きなときに記事が検索できる上に、読むこともできてしまうのです。コンビニや書店で立ち読みする感覚で一度アクセスしてみてください！　本学で雑誌として受入している「日経WOMAN」や「日経パソコン」以外に「日経食品マーケット」や「日経PCビギナーズ」など、授業やパソコンの勉強に役立ちそうな記事満載の雑誌をインターネット上で閲覧することができます。

少しでも見てもらえるようなきっかけになればと、堅苦しくないものをピックアップしてみました。どうでしょう？ 使いたくなってきませんか？ もっと他の機能やツールについて知りたい方はカウンターへお声がけください。

４年間の在学中、いかに図書館を使いこなせるようになるかはあなた次第です。

図書館から“NEWS”を続々発信!

新着図書の紹介

「諜報の天才杉原千畝」　白石仁章 著　(新潮選書)　新潮社

第2次世界大戦のさなか、ポーランドの隣国リトアニアに一人の日本人が外交官として着任した。この外交官は日本を通過してアメリカなどに逃れることを希望した避難民、主としてユダヤ系避難民に数千通もの日本の通過ヴィザを発給し、彼の決断により約6千人の避難民が命を救われたと言われている。彼に命を救われた元避難民たちは、是非お礼がしたいとの一念で戦後彼の行方を探し続け、ヴィザ発給から30年近く経った後に彼を探し当て、この時になって初めてヴィザの発給が彼の独断であったことを知った。ホロコーストの惨劇に抗してユダヤ人を命がけで救った人物にのみ贈られる「諸国民の中の正義の人」の称号が1985年に贈られた。日本人でただ一人この称号を持つ彼の名前は、杉原千畝という。

彼の行いは、幸子夫人の著した「6千人の命のビザ」という本で紹介され、多くの人々に感動を与え、出身地の岐阜県八百町には記念館も造られている。

この「諜報の天才杉原千畝」という本は、彼のヒューマニストとしての側面とは別に、インテリジェンス・オフィサー(諜報活動に携わる者)としての側面に着目して、杉原像を新たに描いた力作である。

「なさけないけどあきらめない：チェルノブイリ・フクシマ」　鎌田實 著　朝日新聞出版

1986年にチェルノブイリで史上最悪といわれる原発の事故がおきた。それから25年たったいまでも、放射能の影響が終結していない。

この本は、医師でもあり1991年に日本チェルノブイリ連帯基金を設立して医師団を派遣したり、医薬品や医療機器の支援をとおしてチェルノブイリと20年間かかわり続けてきた著者が、福島原発事故を目の当たりにして愕然としつつ著したものである。原発の恐ろしさをよく知っているのに、真っ向から反対してこなかった自分にたいする怒り、党派にこだわらず迅速に協力して対応できない政治に対する怒り、それでも子どもたちのために、美しい国をつくりなおしたいという意志は捨てない。“なさけないけど、あきらめない”というタイトルに著者の思いが集約されている。

原発に関する本で、もう一つのノーベル賞といわれる「ライト・ライブリフット賞」を受賞した市民科学者で、原発に反対しつづけた高木仁三郎の著作集や、日本の原子力発電に関する図書も多数所蔵しているので、一読をお奨めしたい。

「カラダの声をきく健康学」　北村昌陽 著　岩波書店

“今の世の中は健康や生活に役立ちそうな情報が、テレビや雑誌、インターネット、ロコミなどを通じて山ほど出回っており、それぞれの情報はおそらく、たいていは何かしらの有益な情報を含んでいるのだろうが、びゅんびゅん飛び交う情報に気を取られ過ぎて、意識がそちらばかりを向いた「頭でっかち」な状態になってしまうと、体の内側からそっと、自分にとっての正解をささやいてくれる「体の声」を見逃してしまう。今、私たちの身の上には、そんな現象がおきているのではないだろうか。”―まえがきより

2009年に退職してフリーのライターになったが、それまで健康情報誌「日経ヘルス」(日経BP社刊)という雑誌のデスク(副編集長)を勤め健康情報について多数かかわってきた著者が、いろいろな専門家に意見を聞くと言葉に隔たりはあっても「体の声をきくことの大切さ」が問題となっていることを感じて、体内の環境を一定に保つ「ホメオスタシス(恒常性の維持)」の観点から「体の声をきく」というテーマを中心にまとめた本である。

「観光学と景観」　溝尾良隆 著　古今書院

今世紀最大の産業は観光だといわれる。観光の経済効果の大きさが認識されるにつれ、国連は、観光が貧困削減にもっとも有効な手段の1つであると、観光の役割に期待し、日本は、経済の閉塞感を打破するため小泉首相が観光立国を宣言した。さらに観光基本法を改正し、観光立国推進基本法を施行し、2008年10月には観光庁を設置した。各自治体は観光重視政策を表明し、大学は、1998年に2校だった観光学科が2010年には40校を超えるに至った。

訪日外国人を増加させるインバウンド観光の推進策が進められたが、そのおりの議論の1つに、「もっと美しいまちを創造しないと外国人は来ないだろうし、たとえ訪れても日本のまちをみたら失望し、日本の評判をかえって落とすだけである」という意見が多くなり、あらたに景観法が制定された。観光に対する期待は大きいが、新しい学問なだけに観光学の体系は確立されていない。

本書は観光学の課題の1つである観光景観論の確立に向けて、すこしでも前進すればよいという思いから書かれたものである。(前書きより要約)

仙台市でも景観法に基づく「景観地区」に、定禅寺通りと宮城野通りを中心としたエリアをそれぞれ指定する方針を決めたばかりであり、今後景観への関心がますます高まっていくに違いない。

「月と暮らす。：月を知り、月のリズムで」　藤井旭 著　誠文堂新光社

“いつでも どこでも つきあってくれる月は 目で眺めても 双眼鏡で見ても 望遠鏡でのぞいても そして、心で見ても 楽しみのつきない天体です”「月の楽しみ」―巻頭の詩より。

星空のよく見える那須高原に星仲間と白河天体観測所をつくり、オーストラリアにチロ天文台をつくり、多くのファンを魅了する国際的な天体写真家として知られている著者が、月のある風景、月の満ち欠け、月のことば、月の文学、月の模様、月と暮らし、月世界旅行、月を見よう、といった各テーマに沿って写真をふんだんに使って解説している本。

著者には、チロと名付けた北海道犬を1969年から1981年の12年間飼い白河天体観測所の天文台長に就任させたいきさつなどを描いた「星になったチロ」をはじめ、「星空が語る宇宙のしくみ」など天体に関する著書も多数あるので、興味のある方はそちらもどうぞ。

「地中海の歴史と科学：大地からのメッセージ」DVD全6巻　イアン・スチュアート 解説　BBC Active／丸善

文明は大地と共に進化し、“大地の下で働く力”が歴史を動かしてきた。

イギリスの地質学者イアン・スチュアートが、大地の裂け目を巡りながら、地中海の美しい景観の成り立ちや歴史上の不可解な謎を解いていく「大地の裂け目」、世界有数の遺跡の宝庫である地中海沿岸の建築と石との関係を解説した「石と建築」、美の追求の影で、いかにして人類が鉱物から顔料を開発してきたのかを紹介する「色と芸術」、古代ローマ帝国にキリスト教が普及するきっかけになったのも、地質学的な現象だったと解説する「信仰と科学」、地中海の水位の上昇による大規模な移住、航海術の発達や羅針盤の作成、台地にできるすり鉢状の窪地・ドリーネを利用した古代ギリシャの洪水の防御など、地中海地方の歴史には水が深く関わっているとした「水と文明」、地球の気候を変動させる力となり、文明の発達を支え、生命の維持にも欠かせない塩もまた、地質学と密接に関わる鉱物であることを解説した「塩と文明」。

6つのテーマと地質学を結びつけ、地質学をわかりやすく解説しながら、地中海文明の謎を紐解いていく。

村上春樹的図書館

健康栄養学科　遠藤道代

もし村上春樹全集をテキストマイニングの手法を用いて形態素解析してみたら、高頻度で出現する単語はなんだろう。おそらく「僕」、「鼠」、「羊男」などの名詞が上位を占めるに違いない。「おそろしく」という副詞は個人的に大歓迎であるし、感動詞「やれやれ」は私も気に入っている。「メタファー」などといった英単語も多いが、やや難解な「形而上学的」などのワードも頻出語かもしれない。

しかしここで忘れてはならないのが「図書館」という名詞なのである。村上春樹の小説に「図書館」の出現頻度はおそろしく多いのだ。図書館で夢読みの仕事をしてみたり、家出して見知らぬ土地の図書館に通ってみたりと、小説の中で図書館は様々な利用価値を示す。村上春樹の描く図書館は、ファンタジーながら実にリアリティが溢れている。中でも私がもっとも脳裏に焼き付いて離れない図書館が、短編小説『図書館奇譚』*に登場する図書館である。

主人公の僕は、市立図書館で本を返却した後、ふと「オスマン・トルコ帝国の収税政策とはどのようなものだったのか」という疑問を抱いて地下の閲覧室に向かう。閲覧室では風変わりな老人から、装丁もがたつくほど古びた分厚い三冊の本を渡される。しかし本は貸し出し禁止で、さらに地下室の読書室に案内されるのであるが、その地下には巨大な迷路が広がっており、その先にはさらに古い階段が続いていた。市立図書館の地下に迷路があること事態が奇々怪々なのであるが、そうとは知らない僕は騙されて読書室の牢屋に閉じこめられてしまう。そこで一ヶ月の間に、三冊の本のすべてを暗記することを強要される。しかも一ヶ月後にはのこぎりで頭を切られて、脳味噌をちゅうちゅうと吸われてしまうのだ。やれやれ。

どうやら知識の詰まった脳味噌はとても美味しいらしい。知識を貸し出すだけなら図書館が損をするばかりだから、どこの図書館でもやっていることだし、脳味噌を吸い尽くされても知識を得たい人が結構いるらしいのだ。「無茶だ、全部暗記できるわけがない」初めは嘆き悲しむ主人公が、やがて脱出するチャンスを窺うためにおとなしく本を読み始める。すると難解な本がなぜかすらすら読むことができ、読んだページは隅から隅まで頭の中に記憶された。実に気持ち良いくらい頭の中に入ってくるのだが、頭が良くなる感じというのは実に素敵な感覚らしい。やがて、脳味噌をちゅうちゅうと吸われてもいいから、たとえ一ヶ月だけでも賢くなりたいと願う人々の気持ちすら理解するようになる。

思えば私が学生の頃は、えらそうな本ばかり並び立ててそれで満足していたものだ。それがある日、本当は何にも分かっちゃいないのだと一頻り嘆いて、すべてを投げ捨ててしまった。以来、本は借りる、貰う、拾う。このいずれかとなった。本との出会いは一期一会。もう二度と逢えないかもしれない、いずれ返却しなければならないという期限付きの出会いは、一層、私と本との新しい蜜月の始まりとなった。

この小説の結末は内緒であるが、私としてはできれば頭はのこぎりで切らずに、脳味噌は耳から吸っていただきたいものだ。吸われた後の脳味噌はスポンジ状にでもなって枯渇しても、明日また本を読んで頭が良くなれば、再び知識の泉で満たされ再生するというのはどうだろうか。毎朝、目覚めたらゼロの自分がいて、一日一日ごとに新しい知識を得ずにいられない。そんな地下室のある春樹的図書館があったら、脳味噌をちゅうちゅう吸われてみたい。

村上春樹著『村上春樹全作品集1979～1989⑤短編集Ⅱ』(1991年, 講談社)所収

○2011年度図書館会議・研修会の情報(主なもの)

●2011年度東北地区大学図書館協議会合同研修会
期日: 7月29日(金)
場所: 秋田大学附属図書館
参加者: 22館31名

●2011年度日本カトリック大学連盟図書館協議会総会
期日: 6月24日(金)
場所: 白百合女子大学
参加者: 13館22名

●2011年度東北地区大学図書館協議会総会
期日: 9月15日(木)
場所: 山形大学工学部
参加者: 40館67名

●2011年度日本カトリック大学連盟図書館協議会実務研究会
期日: 11月25日(金)
場所: 聖心女子大学

○東北大学附属図書館創立100周年記念式典に参加して

東北地区大学図書館協議会監事館の東北大学附属図書館が今年で創立100周年を向かえ、10月5日(土)に川内萩ホール(東北大学百周年記念会館)で記念式典が行われた。

東北帝国大学創設の4年後1911年創設されて以来100年、今では蔵書は雑誌も含めて391万冊をかぞえるにいたっており、「狩野文庫」「漱石文庫」といった貴重なコレクションも研究者の利用に大いに役立っている。

今回の百周年記念式典では、岡本宏東北大学総長顧問より、ダーウィンの「種の起源」初版本が贈呈され、また、ひとつ貴重なコレクションが加わった。

以下は、そのコレクションの一部を展示した企画展となっている。

●煌めきのコレクション：未来への贈り物　(東北大学附属図書館創立100周年記念企画展)
期日: 10月7日(金)〜11月5日(土)　10:00-17:00
場所: 東北大学附属図書館本館1階展示室 (入場無料　会期中無休)

図書館利用状況

2011年5月6日〜9月30日

学科	人数	入館人数	学科・専攻一人当(回)	貸出冊数(冊)	学科・専攻一人当(回)	貸出冊数(冊)	学科・専攻一人当(回)	AV 閲覧回数 (回)	学科・専攻一人当(回)	AV 閲覧人数 (人)	学科・専攻一人当(回)
人間発達学科	351	2,185	6.2	498	1.4	268	0.8	171	0.5	155	0.4
総合福祉学科	222	1,979	8.9	924	4.2	481	2.2	105	0.5	89	0.4
健康栄養学科	319	828	2.6	569	1.8	312	1.0	62	0.2	54	0.2
国際教養学科	255	1,742	6.8	504	2.0	258	1.0	107	0.4	96	0.4
科目等履修生	1	47	47.0	19	19.0	11	11.0	5	5.0	3	3.0
専任教職員	103	462	4.5	323	3.1	118	1.1	4	0.0	3	0.0
一般利用者 (非常勤等含)	—	116	—	339	—	124	—	1	—	1	—
計	1,251	7,359	5.9	3,176	2.5	1,572	1.3	455	0.4	401	0.3

✦ 編集後記 ✦

小中学校時代、図書館に入り浸っていました。おかげでギリシャ神話の世界やエジプト考古学の世界を知ることができました。

ところで、天変地異と人災の2011年は、人々にどのように記憶され、どのように記されていくでしょうか。いずれ、図書館でこの事態を「知る」子供たちが生まれます。図書館には、あらゆる種類の「記憶」や「記録」が書籍やデータとなっています。全ての復興の中に図書館の復興も含まれているのです。 (A.S)

今回の図書館からの情報は、図書館ホームページからアクセスできるオンラインツールについて、一部を紹介しています。

図書館では、新聞データベース、知識・情報に関するデータベース、電子ジャーナルといった多数の電子情報関連の媒体と契約しています。学内ならば、図書館のホームページを通じてアクセスできるようになっていますので、大いに電子情報を活用していただきたいと思います。使い方等、不明な点がございましたら、図書館スタッフにお聞き下さい。 (生出)

図 書 委 員：太田將勝、半田芳吉、アンソニー・スミス、遠藤道代
図書館職員：生出登、須藤清美、山口普子、浅岡京子

Fons Sapientiae 仙台白百合女子大学図書館報　No11　2011年11月1日発行　仙台白百合女子大学 図書委員会　〒981-3107 仙台市泉区本田町6-1
tel 022-374-5090　fax 022-374-4577　e-mail: library@sendai-shirayuri.ac.jp